



プラス プログラムの教え方のヒント

Teaching Tips for the Plus Program)

2003年4月コーラーラブ年次総会 テキサス州 サン アントニオにて

ティム マリナー & アンディ ショー

(プラス プログラムの変更を反映するために 2008年 11月 4日改訂)

— アルファベット順 —

この「教え方のヒント (Tips)」は、「教える者が、教育の場や、ウォークスルー、あるいは復習の課程などで、ダンサーそれぞれに共通する問題やミスを避けるために手助けになる、実際に検証された「ヒントの集まり」である。

これらのヒントは、ダンス プログラムの「定義」に置きかわるものではなく、教えるときの経験を補強したり、ダンサーがコールを思い出して、踊る能力をより一層強化するために用いられるべきである。安易な方法を多用しすぎると、ヒントに頼りすぎるダンサーを育ててしまい、真の理解の妨げになってしまうことに注意を払え。

妥当な言葉による描写を伴った、良い教え方の技術が、その課程で必要とされる。スタイリングのヒントは、踊って披露されるべきだ。ダンサーにとって、騒がしかったり、あわただしい踊り方ではなく、スムーズな、好ましいタイミングの踊り方に気づかせる機会を与え続ける。 — ダンスは、競争ではないのだから。 —

プラス プログラムの「定義」は、インターネットで <http://www.callerlab.org> のアドレスで見つけられる。昨年 (2002年) のコーラーラブ年次総会での、インタレスト セッション「メイン ストリームの教え方のヒント (Teaching Tips for Mainstream)」の資料については、ホーム オフィスまで連絡を。

この資料では、現在のプラス コールをアルファベット順に紹介している。

3 / 4 タッグ (3/4 Tag)

- イ) 「1 / 2 タッグ (1/2 Tag)」や、「タッグ ザ ライン (Tag The Line)」の復習から始める。
- ロ) エンズは中央で出会い、近い手を取り合う。
- ハ) センターズは、それぞれ外側を向いて終わるが、驚いて向きを変えたりしない。

エイシー ドゥシー (Acey Deucey)

- イ) 名前を教える前に、その動きを少し踊らせてみる。
- ロ) センターをまず考える。 — センターズは手をしっかり握っている。
- ハ) パラレル ウェイブや、トゥ フェイスト ラインからだけの動作を、始めの教程で教える。
- ニ) 十分時間をかけてから、アウト フェイシング ライン、インバーテッド

ラインズ、ダイヤモンドなどの体型での踊り方を教える。

オール エイト スピン ザ トップ (All 8 Spin The Top)

- イ) スタティック スクエアから、「フェイス ユア パートナー & ステップ アップ トゥ ア ライト ハンド ウエイブ (face your partner & step up to a right hands...)」と——二つの交差した「ウエイブ」の中にいることを、確認させる。
- ロ) 「スピン ザ トップ」と同じように、前に出る (move up) 時に、全く同じ人と、出会う。全員が、前に進む。
- ハ) このコールの終わりに長いポーズをとると、ダンサーがしがちな、余分な、外側でのアーム ターンをやめさせられる。

チェイス ライト (Chase Right)

- イ) このコールを紹介する前に、「スプリット サーキュレイト」の復習をする。
- ロ) 「ビハインド ユー (Behind You)」の意味を考へろ。(右肩越しに、あなたの後ろの2ポジション目を見る。そこが、あなた方二人が、動作を終わる場所だ。)
- ハ) 動作を始めた時と同じ人と、右手を取り合って終わる。
- ニ) 2カップルのセットアップから、教えたり、復習をする。

コオーディネート (Coordinate)

- イ) カラムの4番目のダンサー同士が、「ベリー センターで、出会うんだ」と、目で合図 (Eye Contact) をし合う。このコールのすべてが、「その人に集中する (center on you)。」
- ロ) カラムの二番目のダンサーは、「サーキュレイト ワンス アンド ア ハーフ (Circulate 1 & 1/2) をした後、一人になる。
- ハ) 反対側から来る人に対し、「違う、違う、そうだ。」 (No, No, Yes) と、言葉による確認で、「サーキュレイト ワンス アンド ア ハーフ (Circulate 1 & 1/2)」で、誰 (だれ) と手を取るかを、明確にする。
- ニ) ベリー センター (元のカラムの4番目の人) は、ラインの端に着くように外側に (veer out) 分かれる。一人になったダンサー (元のカラムの、二番目のダンサー) は、「スピン ザ トップ (Spin The Top)」での動きと同じように、前に移動 (move up) する。

クロスファイアー (Crossfire)

- イ) デモするのに良い、トゥ カップルズのセットアップから、見せたり、教えたりする。
- ロ) これに先立って、「クロス フォールド (Cross Fold)」の復習をしたり、「クロス フォールド」の入った「チップス (Tips)」を、踊らせた。

- ハ) 「エクステンド (Extend)」の部分を、さっと復習する。――しっかり見ていないと、大事なところを見落とすぞ。――コーラーは一步前に出て。
- ニ) センターズは、すぐに「トレード アンド エクステンド (Trade and Extend)」をする。
- ホ) エンズは、すぐに「クロス フォールド (Cross Fold)」をする。今、身体を傾けて、どこの後ろに「クロス フォールド」をするか、確認する。(動き出したら、その人はその場所にいなくなるから。)
- ヘ) トゥ フェイスド ライン (2 faced line)からの動作の時、エンズは、センターの後について行く。そのダンサーの脇(わき)に並んだり、追い越して前に出たりはしない。

カット ザ ダイヤモンド (Cut The Diamond)

- イ) ポイントは、向きを変えないで、滑るように近づいて、手が取れたら、「トレード」を、一回する。
- ロ) ポイントは、(内側の、ダイヤモンドを指している)中央の『手』で、出会う。『ハイヤー! (Hiyah! -- How are You!)』(ヤー こんにちは)と言いながら、斧(おの)で切るようなスタイリングで。
- ハ) 「カット ザ ダイヤモンド」も、「フリップ ザ ダイヤモンド」も始めのポイントは、回って、背中の壁を見る。(180度の回転。)
- ニ) すべての「ダイヤモンド」のコールで、センターズは常に、「サーキュレイト」をするが、ポイントは、すべて他(ほか)の動きをする。

ダイヤモンド サーキュレイト (Diamond Circulate)

- イ) 右手のダイヤモンド(Right Hand Diamond)から始める。そしてなぜ右手なのか説明する。
- ロ) 手を取り合っているのがセンターズ(Centers)。そして(指でダイヤモンドの)中を指し示す人がポイント(Points)であることを、確認する。
- ハ) センターズは、ポイントに、ポイントはセンターズになる。
- ニ) 次の位置を確認する。――前へ出て、新しい壁(90度)を向くように回る。
- ヘ) 双子のダイヤモンド(Twin Diamonds)では、そこにできているボックス(the Box)や、ウェイブ(the Wave)を強調する。このことは、隊形に対する意識(Formation Awareness)を高める。

デキシー グランド (Dixie Grand)

- イ) このコールは、動作をできる人から始める。
- ロ) 全員で、『右、左、右』と、声を出そう。それは、全員が三つの動作、すべてを行うわけではない。
- ハ) シングル ファイルのサークルで終わる。

エクスプロード ザ ウェーブ (Explode The Wave)

- イ) 三つの部分からなるコール。――「ステップ アヘッド、フェイス イン、プル バイ (Step Ahead, Face In, Pull By)」。
- ロ) 前に体を傾けて、「顔を向き合わせて、手を引いて通り抜ける人」を、ちらっと見る。
- ハ) 「フェイス イン (Face In)」の向きは、あなたのいる (4人の) ウェーブのセンターで、(8人のセットの) 中央ではない。(例えば、タイダル ウェーブ (Tidal Wave) から。)
- ニ) 「プル バイ (Pull By)」が、同性同士で行えるように、ウェーブ フォーメーションのアレンジメント # 1 (訳者注: 右手のウェーブで、女性、男性、女性、男性の組み合わせで、女性が外を向いている。)、# 2 (訳者注: 右手のウェーブで、男性、女性、男性、女性の組み合わせで、男性が外を向いている。) でセット アップする。

エクスプロード アンド (エニシング) (ウェーブの隊形からのみ)

Explode and (Anything) (waves only)

- イ) 「ザ ウェーブ (The Wave)」か、「アンド コール (And call)」が聞こえるまで (動き出さないで) 待つ。
- ロ) コーラーは、「アンド (AND)」を、強調する。
- ハ) 「エクスプロード ザ ウェーブ」の始めの、二つの動作をして、次の「コール」を待つ。
- ニ) 簡単な二人のダンサーで動くコールを使ってみる。「タッチ 1 / 4 (Touch 1/4)」、「スター スルー (Star Thru)」、「スライド スルー (Slide Thru)」、「シングル サークル (Single Circle)」など。
それから、これより難しいコールを。「ライト アンド レフト スルー (Right & Left Thru)」、「グランド スイング スルー (Grand Swing Thru)」、「パス ディー オーシャン (Pass The Ocean)」、「ロード ザ ボート (Load The Boat)」など。
- ホ) 「エクスプロード アンド ロール (Explode AND ROLL)」は、「プル バイ」や「パス スルー」をしようとする期待や習慣を壊す。(多くのダンサーにとってタフな動作だ。)

エクステンド (Extend)

- イ) コールの名前が、「エクステンド」だということを、思い出せ。
「エクステンド ザ タグ」(Extend The Tag)だとか、「エクステンド ユア ピン」(Extend Your Ping)などのコールは使うな。
- ロ) もし、手を取っているならば、そのウェーブ体型の時の利き手に注意する。
次にも同じ手を使うから。
- ハ) ダンサーによっては、カップルに成ったり、お互いが離れるために、横に

ずれて(Slide)、位置を調整することが必要になる。

ファン ザ トップ (Fan The Top)

- イ) ダンサーに、『このコールは「スピン ザ トップ (Spin The Top)」の、発育不良の、間違いやすい、従兄弟 (いとこ) だ。』と、伝える。
- ロ) 「スピン ザ トップ」のような、最初の「トレード (Trade)」は、ない。
- ハ) センターに、捕まれ (Hang On)。

フリップ ザ ダイヤモンド (Flip The Diamond)

- イ) センターズは、ダイヤモンド サーキュレイト (Diamond Circulate) 自分たちの動作をする。
- ロ) ポイントは、隣の空 (あ) いている場所に「フリップ イン (Flip In) (はじけ飛んで、入り込むように)」する。あたかも、実在しないひとの後を走り回るようにして。
- ハ) ポイントは、外側の手が、ラインやウェイブをつくるとき、真ん中 (Very Center) で取り合う。
- ニ) ポイントは、「フリップ」が終わった後、反対側 (背中側) の壁と向かい合っている。(180度の回転だ。)
- ホ) ポイントは、ダイヤモンドの中央を横切らない。ー自分の側 (がわ) にとどまる。(訳者注: 向こう側へは、いかない。)

フォロー ユア ネイバー (Follow Your Neighbor)

- イ) 2カップルズ (2 Couples) セット アップで、コールしたり、ワークショップをするのがよい。
- ロ) 始めの動きは、ちょうど「スクート バック (Scoot Back)」と、同じ。「フォロー ユア ネイバー」を教える前に、これ (Scoot Back) を、たくさん使って練習する。
- ハ) はじめの動作は、「まず、前へでよう (Let Go & Move Forward)」。そして次にあなたは、「アーム ターン (Arm Turn)」をするのか、「フォールド & ロール (Fold & Roll)」をするのか、考えよう。
- ニ) 全員で、「エクステンド & キャスト オフ 3/4 (Extend & Cast Off 3/4)」を。トレーラーは、本当の人間と。リーダーはゴーストと。始めと同じ人と、手を取って終わるが、とる手は変わる。(それに、向かい合っていた壁の向きも変わる。)
- ホ) リーダーの動作は、「1/2 ラン & ユー ターン バック (1/2 Run & U Turn Back)」とも、説明できる。
- ヘ) 「フォロー ユア ネイバー & スプレッド (Follow Your Neighbor & Spread)」だけを、教えるようなことは、避ける。ダンサーに教えすぎないように。

グランド スウィング スルー (Grand Swing Thru)

- イ) 隊形を明確にする。ダンサーによっては、「タイダル ウェーブ (Tidal Wave)」という言葉なんて、聴いたり見たりしたことも、無いかもしれないが。
- ロ) 「スウィング スルー (Swing Thru)」と同じように、『手』に従属したコールだ。— 常に『右手』から、始まる。
- ハ) まず、『右手』で、「トレイド」できる人が、「トレイド」。次に『左手』で「トレイド」できる人が、トレイド。
- ニ) 「グランド レフト スウィング スルー (Grand Left Swing Thru)」も、やってみる。
- ホ) 「タイダル ウェーブ (Tidal Wave)」からと、同じ様に「フェイシング ライン (Facing Line)」からも、踊らせてみる。
- ヘ) 6人からの「ウェーブ」でも、「グランド (Grand)」であることに、注意する。

リニア サイクル (ウェーブの隊形からのみ)

(Linear Cycle) (waves only)

- イ) この動作の前に、一ないし二週間は、パラレル ウェーブから「リーダー フォールド (Leader Fold)」や、「シングル ヒンジ、ニュー リーダー フォールド (Single Hinge, New Leader Fold)」のワーク ショップをしてみてもは？
- ロ) ピールの向きを、強調する。そして空 (あ) いた場所を埋めよと。
- ハ) ダンサーはしばしば、この動作を「リサイクル & スweep 1/4 (Recycle & Sweep 1/4)」のように踊るが、動作の終わる位置が同じだから、それを受け入れ、「その動きを体感させよう」。
- ニ) ウェーブの端にいたダンサーは、動作が終わった後で、元いた場所の方 (訳者注: 体の向きは、270度変わっている。) を向いている。
- ホ) ダンサーは、しばしば「ヒンジ」、「フォールド」、「フォロー」、「ピール」(Hinge, Fold, Follow, Peel)と唱 (とな) えている。

ロード ザ ボート (Load The Boat)

- イ) まず、2カップルズで動ける隊形にして、「センターズ パート」(Centers Part — センターの4人が担当する動作)のみを、「本来は、1/2アレンジメントのライン(女性が左、男性が右) 隊形から始まる動作である。」ことを、強調しながら、ワーク ショップを行う。
- ロ) はじめの「センターズ パス スルー」は、「ほんの一寸だけ」と、念を押す。こうすることで、「クォーター アウト (ボックス隊形で、フェイスアウト)」をした後で、誰 (だれ) と「トレイド」するかが、わかりやすくなる。

- ハ) センターズの動きは、4つの部分 (4 P) から成り立っている。パス (Pass)、ピボット (外向きの回転 Pivot Away)、パートナー トレード (Partner Trade)、そしてパス スルー (Pass Thru)。
- ニ) ダンサーを、ゼロ ラインに組み立てて、エンズのダンサーが何をするかを、説明する。その後で、センターのダンサーに、彼らの動作を行わせる。「ライト アンド レフト スルー」、「スライド スルー」をした後 (ゼロ ラインに戻すため。)、もう一度、その動作を繰り返す。何回か上手 (うま) くできたら、「スター スル」をして、標準的なセット アップ (Facing Lines) から、全員に踊る機会を与える (動作に入る位置を変えながら)。

ピール オフ (Peel Off)

- イ) バナナの皮をむくように。ー 外側に離れて、輪を描いて戻るように。
- ロ) リーダーとトレーラーを確認しよう。多分同性同士をリーダーに、他 (ほか) の性の人を、トレーラーに、セット アップするのが、分かりやすいだろう。
- ハ) 全員、顔の向きが逆になる。
- ニ) (もし貴方 (あなた) のダンサーができるのならば) このコール (「ピール オフ」) を 教える前に、ダブル パス スルーの終わった体型 (Completed Double Pass Thru Formation) から、ハーフ ズーム (1/2 Zoom) を、練習してみると良い。
- ホ) 始めの数週間は、コンプリートド ダブル パス スルー体型 (Completed Double Pass Thru Formation) から、場合によっては Z 隊形なども使ってみたらどうだろう。

ピール ザ トップ (Peel The Top)

- イ) ゼット体型 (Z Formation) から、始める。リーダーは、センターで手を取り合っている人から、離れるように「ピール (Peel away)」する。
- ロ) 全員、3 / 4 回転する。ー リーダーは、外側へ「ピール」を 180 度し、コーナーを後 1 / 4 回転分前進 (Move up) する。その間、トレーラーは、「エクステンド (Extend)」と「キャスト 3 / 4 (Cast 3/4)」をする。
- ハ) リーダーが「ピール オフ (Peel Off)」をしたら、全員で「ファン ザ トップ (Fan The Top)」をする。
- ニ) ワークショップをしたり、2 カップルズのセット アップで、教えるのに良いケース。

ピン ポン サーキュレイト (Ping Pong Circulate)

- イ) アレンジメント ゼロの 1 / 4 タッグ隊形 (訳者注: エンズのカップルズは、左が男性、右が女性、センター ウェイブは男性が外側、女性が内側の右手のウェイブ) をつくり、ウェイブとカップルズを示す。

(訳者注：原典では、1 / 4 タグ隊形を卓球台に見立てて、ネットとプレイヤーとして説明している。)

- ロ) 内側と外側と別々に、「サーキュレイトの通り道 (Circulate Path)」を、示す。まず男性だけ「サーキュレイト」をさせる。次に女性だけを。これを数回繰り返す。
- ハ) 外側のダンサーには、「前の人の後ろに続け」と。これが「利き手」を正しくとる手助けになる。
- ニ) エンズでカップルの人は、常にセットの中心を向いていることを指摘する。

リレイ ザ ドゥシー (Relay The Deucey)

- イ) これも「数を数えながら躍るコール (Manta Call)」だ。1 / 2、3 / 4、1 / 2、1 / 2、1 / 2、3 / 4 と。
- ロ) 始めに、デモをしてみせるのにととても良いコールだ。— 一人のダンサーの動きを、通して観察させる。
- ハ) 動作を終わったときに、はじめと全く同じ人と、隣り合って、手をとって (Holding onto) いることに、注目させる。— 『「オール エイト サーキュレイト」を二回した後の離れた位置』や、『スクエアの斜め、反対側の (Diagonally across the square) 位置』だ。
- ニ) この動作は、「スピン ザ トップ、グランド スィング スルー、スピン ザ トップ (Spin The Top, Grand Swing Thru, Spin The Top)」を、しているように感じられる。
- ホ) ウエイブから離れたら、外側をシングル ファイルで前に動いてくれ。回転したり、スターをつくったり、ウエイブの中に飛び込んだりしないで。
- ヘ) 動作を一緒に開始した相手は、あなたの番になったら、あなたを「グランド ウエイブ」の中へ、送り戻してくれる。そして動作の最後に、再び出会う。
- ト) あなたが外側を動いているなら、周囲の人 (訳者注：ウエイブ上を動いている人。) の動きに注意を払え。このことがスクエアを動く、ペースを決める助けになる。
- チ) アレンジメント ゼロの「ウエイブ」 (訳者注：右手の平行なウエイブで、男性が外側にいる。) から、内側を向いている女性は、4手 (訳者注：右手、右手、左手、右手) ウエイブの上を動き、外側を向いている女性は、2手 (訳者注：・、・、・、・、右手、左手) ウエイブ上を動く。
- リ) 全員、動き続ける。誰 (だれ) も立ち止まらない。

(エニシング) アンド ロール ((Anything) And Roll)

- イ) もう一つの、ほかのコールの後ろにつけくわえられる「接尾語コール」。
- ロ) 前のコールの一部が、回転動作を伴っていたときに、「ロール (Roll)」できる。

- ハ) 回転円盤にのり付けされたように (怠け者スーザン— lazy Suzan)、「ロール (Roll)」は、瞬間的に、その場で行う。個々に、体が回転していた方に、1/4回転 (壁一つ分)、余分に回る。
- ニ) 最初は一人か、二人の動作:「フェイス ライト (Face Right)」、「フェイス イン (Face In)」、「スター スルー (Star Thru)」、「タッチ ア クォーター (Touch 1/4)」、「トレード (Trade)」、「キャスト オフ 3/4 (Cast Off 3/4)」などで。
- ホ) 「ロール」の動作が終わった後で、新しい隊形を作る。できるならば、手を取って。
- ヘ) 「ロール」の動作の前に、誰 (だれ) かと手を触れあって (touching)いたとき (例えば「サイド バイ サイド」でいたとき) は、「ロール」の後で、その人と再び手を取り合うことはない。
- ト) いつもすべての人が、「ロール」できるわけではない。この良い例としては「トレード バイ & ロール (Trade By & Roll)」や、「ピン ポン サーキュレイト & ロール (Ping Pong Circulate & Roll)」などがある。

シングル サークル トゥ ア ウエイブ (Single Circle To A Wave)

- イ) 両手を使う。男性は、手のひらを上向き (palms up)に。女性は、手のひらを下向き (palms down)に。(同性同士の場合は、この意見に従わない。)
- ロ) 両手をとって、左へサークルを1/2回転し、個々に左にずれて (Veer Left)、ミニ ウエイブをつくる。

スピン チェイン ザ ギアーズ (Spin Chain The Gears)

- イ) はじめに、「スピン チェイン スルー (Spin Chain Thru)」の復習を、何回か行ってから、「スピン チェイン スルー (Spin Chain Thru)」の従兄弟 (いとこ) がこのコールだと、紹介する。
- ロ) 「スピン チェイン スルー (Spin Chain Thru)」と同様にスタートし、4人の歯車 (Gear)が回転したあと、センターが「スピン チェイン スルー (Spin Chain Thru)」と同様に動いて終わる。
- ハ) 始めに、デモをしてみせるのが効果的だ。それに指示を細かく。
- ニ) 次の点を強調する。4人の「スター (Stars)」が3/4回転した後、直線上に並ぶ (Line Up)。それから「トレード (Trade)」、「キャスト 3/4 (Cast 3/4)」をする。その間に、残りの人は、「ピール オフ (Peel Off)」をするように、外回り (Flip Out)に向きを変える。
- ホ) スターが回転する間、「ギアーズ、ギアーズ、ギアーズ (Gears, Gears, Gears)」と、繰り返し唱 (とな) える。— こうすることで、後から出てくる「エクスチェンジ (Exchange)」と区別するのに役立つ。

スピン チェイン アンド エクスチェンジ ザ ギアーズ

(Spin Chain and Exchange The Gears)

- イ) 従兄弟 (いとこ) の動作の復習を始めにしよう。「スピン チェイン スルー (Spin Chain Thru)」と、「スピン チェイン ザ ギアーズ (Spin Chain The Gears)」を。
- ロ) 始めに、デモを。
- ハ) 外を向いている「車輪のスポーク (spoke)」役が、(行列や、くねって歩くようなスタイルで) スターを回転させるときに、右手を挙げて、「エクステンジ (Exchange) の先導をする。
- ニ) このコールを、「ギアーズ (Gears)」と容易に区別させるために、「スター (Star)」を 3 / 4 回転させるときに、「エクステンジ、エクステンジ、エクステンジ (Exchange, Exchange, Exchange)」と唱 (とな) えさせる。
- ホ) コールの終わりは、「フリップ ザ ダイヤモンド (Flip The Diamond)」の終わりの時と同じような感じだ。
- ヘ) ダンスが、「ゼロ ボックス ウエイブ (Zero Box Wave)」から始まるとき、「エクステンジ (Exchange)」を始める前に、「オリジナル パートナー (Original Partner)」が、どこにいるか確認し、その場所にくねって (snake) 行って動作を終わる。

(エニシング) アンド スプレッド ((Anything) and Spread)

- イ) これは、「接尾語」のコールだ。— あなたが既に知っているコールに、付け加えられる。
- ロ) 始めは、4 人だけがアクティブな形で。— 例えば 「ヘッズ スター スルー アンド スプレッド」 (Heads Star Thru and Spread) のように。
- ハ) 次に、タンデムから。— 例えば 「ウィール アンド ディール アンド スプレッド」 (Wheal & Deal & Spread)。
- ニ) ウエイブからは、「センターズ トレイド (Centers Trade)」、「エイシー ドゥシー (Acey Deucey)」、「ファン ザ トップ (Fan The Top)」、そして最後に「フォロー ユア ネイバー (Follow Your Neighbor)」等々を

ティーカップ チェイン (Teacup Chain)

- イ) 一つの教え方として、
 - 1) 始めは、ヘッドの女性だけ。
 - 2) 次にサイドの女性だけ。
 - 3) それから女性全員で。
- ロ) 別な方法は、
 - 1) まず「オール フォー レディース センター」 (All Four Ladies Center) を、教えて、
 - 2) 次に、「オール フォー レディース トゥ ザ ライト」 (All Four Ladies to the Right) を、

3) それから、上の二つをミックスして教える。

この方法は、教えている間を通して、ダンサーは全員がアクティブである。

- ハ) 女性は、「プラマネイド」の順に男性を訪れる。(皆を「シングル ファイ
ル プラマネイド インサイド」のコールで動かして、男性がどう変わっ
ていくか、注意を払わせる)。
- ニ) すべての右手スター (Right Hand Star) は、3 / 4 回転、左手のスターは全
て一回転と 1 / 4 (人によっては 5 / 4 回転の方がわかりやすいかも)。
- ホ) 女性が、どの手を使うかコントロールする。・・・女性が「スター」と「ア
ーム ターン」の間に、手を取り替えなくてはならない。
- ヘ) ヘッドの男性は、女性を回している間に、「センターへ」と、ささやいてあ
げられる。サイドの男性は、「ヘッドの男性のところ (ジョー、スティープ
・・・) へ」と、ささやける。

トラック トゥ (Track 2)

- イ) 「リーダーズ トレイド、パス スルー、トレイド バイ、ステップ トゥ
ア ウェーブ (Leaders Trade, Pass Thru, Trade By, Step to a Wave)」、あるいは
「リーダーズ トレイド、パス トゥ ザ センター、センターズ パ
ス スルー、ステップ トゥ ア ウェーブ (Leaders Trade, Pass to the
Center, Centers Pass Thru, Step to a Wave)」のコールを何回か躍らせて、動き
のパターン (Traffic Pattern) を、理解させる。
- ロ) はじめにデモを試してみせるのによい、もう一つの例だ。
- ハ) リーダー二人は、回り込む (Wind up) で、元の位置より遠くのウェーブで
外を向いて終わる。トレーラー二人は、回り込んで手前のウェーブで中を
向いて終わる。
- ニ) トレーラーは、コールの間中、目の前にいる人の、後ろに続く。
- ホ) 左側にいるダンサーは、「外側のトラック (Outside Track)」(時計回りに動
く)、右側のダンサーは、「内側のトラック (Inside Track)」(反時計回りに
動く) を、お互いに動く。「パッシング ルール (右肩通り抜けのルール)」
に従いながら。
- ヘ) トレーラーの片手を、リーダーの肩に置かせて、「タンデムでの、パートナ
ー トレイド (Tandem Partner Trade)」をし、続けて「エクステンドを二回
(Extend Twice)」をさせる。
- ト) 隣の人に、近づかせる。「クロバーリーフ」での、左右に「分かれる」の
とは違う)。
- チ) 手は、「いつものポジション (Ready Position)」に保つ。

トレイド ザ ウェーブ (Trade The Wave)

- イ) 外向きのアレンジメント 0 (訳者注: 男性が左、女性が右の外向きライン) のライ
ンや 1 / 2 (サッシュエイ ポジション) のライン (訳者注: 女性が左、男性が

右の外向きライン) に沿っても、トレイドの練習をしたい。(訳者注: プラスの定義では、この動作は、「4人のオーシャン ウェーブから始める。」となっているが、プログラムのレベルによっては、ラインをウェーブの一種として扱っている。)

- ロ) 「テイク ア ピーク (Take A Peek)」— 体を前に傾けて、これから動いていく場所を確認する。トレイドをする相手とは、右肩ですれ違う。
- ハ) 動き出す前に、目で合図 (Eye Contact) をし合う。さっと動く前に、見る。
- ニ) 同性同士で動くように、アレンジメント1や2の、ウェーブでセットアップして、「ボーイズ トレイド、ガールズ トレイド、トレイド ザ ウェーブ (Boys Trade, Girls Trade, Trade The Wave)」。
- ホ) 「トレイド ザ ウェーブ — ノー ピーキング (ちらっと見ないで) (Trade The Wave -- no pecking!!)」は、ダンサーやコーラーの悪い習慣を、打ち砕くのによい方法だろう。

この資料の日本語への翻訳と、その複製の作成について、2009年8月26日付でCALLERLABの許可を得て行った。

2009年10月31日

CALLERLAB 会員

久力 義之